

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立芸術総合高等学校)

目指す学校像	世界で活躍するアーティストを輩出するアカデミー
--------	-------------------------

重点目標	1 芸術的表現力と共通教科における学力の向上 2 社会性と自立心への向上 3 進路希望の実現 4 開かれた学校づくりの推進
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月28日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	■現状 ・各芸術分野における高度な専門教育を推進するとともに、多角的な文化芸術活動を重点的に展開している。 ・1年次数学及び英語の少人数授業、希望者対象の放課後補講や長期休業中の補講等を実施している。 ■課題 ・芸術各分野における専門教育の更なる充実と共通教科における学力向上を実現するため、「個」を重視したきめ細かい指導を展開するとともに、学習環境を更に充実させることが必要である。 ・知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となる能力を向上させるため、各教科等における発表、説明、論述、討論、講評等の言語活動を充実させるとともに、アクティブ・ラーニング学習観を踏まえた「学びの改革」を推進する必要がある。	1 芸術各分野の創造的な知識・技能の更なる向上と言語活動の充実 2 専門教科と共通教科の調和の取れた学習環境の実現	①【美術】 アクティブ・ラーニング等の指導法の研究と「素描」において「全員指導体制」の枠組みを構築【音楽】 講師を含めて単元や試験の区切りで生徒の実態の共通理解をし、学科全体で生徒の到達度を分析【映像】 カリキュラムの見直しに着手するとともに発表会のみならず日常の授業の中にも発表・討論等を進行に応じて実施【舞台】「劇表現」などの体験型学習においても年間を通じてノートやふりかえりシートを活用 ② 学科の枠を越えた発表や作品の鑑賞と学科間交流の機会の設定 ① 夏季休業中の共通教科の補習と専門教科の行事等の日程調整による学習環境の改善 ② 専門教科における「課題見える化表」の作成等による課題の課題状況の共有 ③ 学習習慣の定着に向けた1年次「朝自習」の実施 ④ 生徒のニーズに応じた進学補講の実施 ⑤ 定期考査前を中心に設定してきた自習室を通常時にも設定	①② 「学校生活満足度調査」における専門教科への意欲的な取組を示す調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ① 生徒の創作活動や表現活動等における言語活動が意欲的かつ能動的なものとなっているか。 ② 生徒一人一人がプライドを持って学科活動を行うとともに、他学科の活動に関心をもち、互いの発表を鑑賞しているか。	■4つ以上の学科の教育活動並びに特別活動や課外活動等において、創造的な知識・技能の向上と言語活動の充実を実現 ①② 「学校生活満足度調査」における専門教科への生徒の意欲的な取組を示す調査項目の肯定回答が91%となった。 ① 各学科の教育活動においてプレゼンテーション、バス・セッション、PBL、レポート・ライティング等の主体的で協力的な学びが展開され、生徒の言語活動を促す取組が充実した。 ② 各学科活動の発表機会は多く、生徒一人一人がプライドを持って、生き生きと取り組むとともに、学科間の相互理解と学び合いも行われた。	A	■次年度への課題 ・【美術】引き続きアクティブ・ラーニング等の新しい授業実践方法の研究と「素描」の指導体制の改善が必要である。【音楽】学習習慣の定着と意識向上を図る方策を検討する必要がある。【映像】新学習指導要領実施を視野に、美術表現系進学を重視したカリキュラムの検討を継続する必要がある。【舞台】考えたことを言語化する作業の重要性を理解させ、おさなりにさせない工夫が更に必要である。 ■改善策 ・専門教科と共通教科のバランスに対する意識を更に高め、学力向上に向けた取組を推進する必要がある。
2	■現状 ・本校生徒の多くが明確な目的意識を持ち、学校生活が有意義で興味深く、充実したものになっている。 ・文化祭や体育祭等の学校行事や各学科での活動において、生徒が主体的に判断し、行動している。 ■課題 芸術表現者となるべくワンランク上の意識を持たせるための働きかけを行い、主体性と社会性を更に向上させる必要がある。また、生徒一人一人の特性等を多面的・総合的・共感的に理解し、保護者、生徒との信頼関係に基づく適切な支援を組織的に展開する必要がある。	1 芸術表現者を意識した主体性と社会性の獲得 2 必要とする生徒一人一人の実態に即した組織的な支援を実現	① 生徒会本部役員会議の定例化と各種実行委員会との情報交換を実施 ② 生徒間の「結びつき」を強化するため、文化祭における学科や年次を超えた合同企画を実施 ③ 各活動の先の見通しを持たせるために2～3カ月先までのスケジュールを周知 ④ ノーチャイム制の継続と6月・10月・1月の生徒(生活委員)による校門警備の実施 ① 定例の学科会や年次会等による情報共有と支援を必要とする生徒の実態把握のための体制整備 ② 教育相談委員会を中心とするスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び外部機関とのスムーズな連携と「個」に応じた効果的な指導の実施	①②③④ 「学校生活満足度調査」における主体的な学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①② 各行事の運営において、生徒会と実行委員会が協力して学校全体をまどめ、学科や年次を超えた合同企画が実施できたか。 ①② 「学校生活満足度調査」における学校生活の満足度(充実度)が9割程度になったか。 ① 生徒の支援に必要な情報把握のための体制が整備されたか。 ② スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関等との連携で実効性のある支援が実施できたか。	■基本的学習習慣は概ね確立されており、主に学校行事や各学科の教育活動等を通じて主体性・社会性の獲得が実現 ①②③④ 「学校生活満足度調査」における生徒の主体的な学校生活に関する調査項目の肯定回答が93%となった。 ①② 学校行事における生徒会と実行委員会の連携がスムーズであり、どの行事も滞りなく成功させることができた。 ①② 四つ葉祭(文化祭)での四学科合同劇は年次の垣根も越えて生徒同士の結びつきをより一層強めた。	A	■次年度への課題 ・遅刻や欠席が多くなっている生徒に対する実効力のある丁寧な指導が必要である。 ・「学校生活満足度調査」における生徒の生活マナーに関する調査項目の肯定回答は65%であり、今後は結果分析を詳細に行うとともに、マナー向上につながる方策を検討する必要がある。 ・次年度は四つ葉祭(文化祭)の運営母体がこれまでの文化祭実行委員会から生徒会へと移行するため、組織間のスムーズな連絡・調整が必要である。 ■改善策 ・ノーチャイム制の定着に裏付けられた生徒の時間管理意識を起点に、完全下校時刻の徹底や安易な遅刻・欠席の防止に向けた具体的な方策を検討・実施する。 ・四つ葉祭(文化祭)は、生徒会と各クラス、各学科との連携を密にしながら実施する体制を確立する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携は、ニュースの振り分けを適切に行うとともに、外部機関との連携のノウハウを教職員間で共有する。
3	■現状 東京芸大、東京学芸大等の国公立大学や芸術系私大を中心に、約8割の生徒が現役で進学している。 ・各種進路ガイダンスの実施や進路指導に係る様々なツールの導入等、生徒の実態に即した適切な進路指導を展開するための環境が整いつつある。 ■課題 ・進路指導に係る様々なツールを更に有効活用し、生徒の多様な進路希望を実現するための適切な支援を検討する必要がある。 ・職業観、勤労観をはぐむキャリア教育の観点から、各芸術分野において学んだことが社会に出たときに役立つという意識を更に高め、生徒の自主的・自発的な学習を促す指導を充実させる必要がある。	1 芸術系大学をはじめとする進路実績の向上 2 芸術各分野における職業観の育成と適切な進路選択のサポートを実現	① 希望者に対する校内模試の実施回数増と「COMPASS」を利用した効果的な受験指導の実施 ② 分野別ガイダンスの実施時期の変更(2年次12月) ③「スタディサポート」の効果的利用と生徒の実態に合った個別学習や進路相談の実施 ④ 模擬試験や小論文添削・教材の紹介、面接指導等をきめ細かく行い、生徒の受験勉強の進捗状況を把握 ⑤ 進路指導に必要な教材や資料購入に係る予算の確保 ① 「FINE SYSTEM」「COMPASS」のインストール拡充とデータ活用のための職員研修を2回実施 ② 面接指導時における「ハイスクールオンライン」の受験報告の活用 ③ 【美術】美術科独自の進路説明会や各種ガイダンス、特別講演会を実施【音楽】「大学で学ぶ」「音楽を職業とすることの厳しさ」を学科集会や卒業生との進路行事で指導【映像】大学のオープンキャンパスや卒業制作展の情報提供と特別講義の実施【舞台】適切な進路情報の提供と卒業生懇談会、分野別進路説明会の内容検討	①②③④⑤ 生徒一人一人が希望どおりの進路実現が果たせ、進路実績が向上したか。 ① 校内模試の実施回数が増加したか。 ② 分野別ガイダンスの実施時期が変更され、早期に受験準備に入れるような道筋がつけられたか。 ③④ 個に応じた学習支援や進路相談が行われ、進路への意識付けができたか。 ⑤ 進路指導に必要な予算確保が実現したか。	■生徒の進路希望実現に向けた様々なサポートを展開することで新たな進路先の開拓とともに進路実績の向上が実現 ①②③④⑤ 概ね生徒一人一人の希望に沿った進路先が選択されたとともに、例年進学者がいる芸術系の大学に加えて、筑波大学や二松学舎大学等への合格者が出た。 ① 3年次校内模試を5回(昨年度3回)実施した。 ② 早期の進路意識向上を図るため、今年度は分野別ガイダンスを初めて1・2年次合同開催とした。 ③④ 「スタディサポート」や校内模試の結果を活用し、個に応じた学習支援や進路相談が効果的に行われた。 ⑤ 県費及び団体費と併せて、進路指導に必要な予算を確保し、消耗品を購入した。	A	■次年度への課題 ・進路指導に係る様々なツールを更に有効活用するための具体的な方策を検討するとともに、より本校の実情に合った指導体制を確立する必要がある。 ・新学習指導要領の実施を踏まえ、芸術系大学の多様な入試に対応するための教育課程の編成を研究・検討する必要がある。 ・芸術各分野における職業観・勤労観を更に育成するための具体的な方策を検討する必要がある。 ・本校卒業生の現在の進路先などの実態把握を進め、データベース化して今後の進路指導に生かす必要がある。
4	■現状 ・地域社会や関係機関と連携して様々な文化芸術活動を展開している。 ・ホームページを中心とする広報活動が積極的に行われ、本校の魅力や特色ある教育活動の様子が広く発信されている。 ■課題 ・芸総全体のブランディングを強化し、本校の知名度を更に向上させるための効果的な広報手段を模索する必要がある。 ・教務部内に新設した「生徒募集企画担当」を中心に、生徒募集に関連する学校内外の環境分析及び既存の取組の検証を行い、本校の魅力やより多くの中学生やその保護者等に発信するためのシステムづくりを検討する必要がある。	芸術系進学重視型の専門高校としての知名度の更なる向上	① 「チーム芸総」としての全教職員の協力体制の確立 ② 入学生や学校説明会参加者に対するアンケート内容の見直しと結果分析に基づく改善 ③ 中学校の芸術関連の部活動、芸術系各種教室、外部機関との連携による広報活動の実施 ④ ホームページの定期的更新と中学生及びその保護者に対するメール配信を実施 ⑤ 【美術】外部機関と連携した展示企画や中学校美術部、学習塾、美術予備校等と連携した広報活動を展開【音楽】早期の中学校訪問の機会の増加と校内に学科紹介スペースを設置【映像】体験入学時のアンケートの記入内容のフィードバックと学科パンフレットの作成【舞台】地域イベントへの参加と卒業生の活躍情報などの広報	①②③④⑤ 4学科全ての志願倍率が1.0倍を超えたか。 ② アンケート調査の結果分析を年度末までに実施し、その結果を各学科・分掌・年次等の次年度の計画に生かす方向性を示すことができたか。 ③ これまでの本校の学校広報(生徒募集)の取組とデータ分析等に関する職員研修会を2月に実施した。 ④⑤ 「芸総アンバサダー会議」の新設や中学生保護者対象の授業見学ツアーの実施など、学校広報(生徒募集)活動を創る新たな企画(計画)は9割程度実施できたか。 ④ ホームページ全体の更新数は2月21日現在で約330回(前年度129回)で大幅に増加するとともに、学校説明会や体験入学等の案内や掲載内容等を工夫・充実させた。 ⑤ 中学生及びその保護者対象のメール配信サービスは登録者数196名、メール配信回数39回(2/24現在)であった。	■全教職員の協力体制の下、新たな広報活動を展開し、本校の知名度及びブランド力の向上が実現 ①②③④⑤ 平成29年度入学者選抜における本校全体の志願倍率は1.04倍(2/24現在)となった。 ② 入学生及び学校説明会や体験入学参加者に対するアンケート内容を見直し、結果に基づく改善を順次行った。 ② これまでの本校の学校広報(生徒募集)の取組とデータ分析等に関する職員研修会を2月に実施した。 ③④⑤ 「芸総アンバサダー会議」の新設や中学生保護者対象の授業見学ツアーの実施など、学校広報(生徒募集)活動を創る新たな企画(計画)は9割程度実施できたか。 ④ ホームページ全体の更新数は2月21日現在で約330回(前年度129回)で大幅に増加するとともに、学校説明会や体験入学等の案内や掲載内容等を工夫・充実させた。 ⑤ 中学生及びその保護者対象のメール配信サービスは登録者数196名、メール配信回数39回(2/24現在)であった。	A	■次年度への課題 ・学校説明会や体験入学等への参加状況の推移をデータ化し、分析・検証を行うことで学校広報(生徒募集)活動を生かす必要がある。 ・各学科間の情報共有を更に推進し、取組の改善・更新を継続的に行っていく必要がある。 ・今後も地域に根ざした活動を積極的に展開するとともに、県内全域に及び広範囲の取組を引き続き推進する必要がある。 ■改善策 ・年間を通じた学校広報(生徒募集)活動のビジョンを明確にし、組織的・計画的な方策を展開する。 ・本校への来校者数を増やすための実効性の高い取組を実施する。 ・全教職員の総力を挙げて芸総全体のブランディングを更に強化するための方策を実行する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年3月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度A及び2に対する達成度Bは妥当である。 ・「学校生活満足度調査」の結果も良く、生徒の専門教科への意欲的な取組が窺える。 ・芸術教育に特化した、県内唯一の高校に第一希望で入学できた喜びを、常に忘れることなく、専門教科と共通教科の両方にに対し、努力を積み重ねていくことが大切である。 ・共通教科を疎かにすると、専門教科で詰まってしまうことがあるかもしれない。専門教科と結びつくものが共通教科にはある。 ・創作活動を充実させるための「振り返り」は、言語活動の充実にもつながり、有効と考える。	
■評価項目(年度達成目標)1及び2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・いつも主体的に前向きな気持ちで、毎日を積極的に取り組む姿勢が、芸術に対する表現力や創作意欲に結び付けていく。 ・真の意味で主体性や社会性の獲得を目指すのであれば、創作活動を通じた地域社会との交流を図ることが最も有効な方策のように感じる。	
■評価項目(年度達成目標)1及び2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・芸術は、短期間の努力で成果を見込めることはない。更に専門的な技術や表現力を向上させるためにも、上級学校に向けて挑戦し、将来の目標に向かってしっかりと進んでいくことが大事である。 ・進学後も充実した学びが継続できるような視点を生徒に持たせる必要がある。将来どこで何を学ぶかは、目標とする大人になるための手段であり、大学合格は通過点に過ぎない。 ・進路実績が向上し、生徒への進路指導の努力が実った形だと感じる。今後も継続的に指導を続け、生徒一人一人の進路希望実現に向けた満足感を大切にしていきたい。	
■評価項目(年度達成目標)に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・生徒が県内全域から通学している芸術総合高校として、は、全県民に対して芸総でしかできないことなどを積極的に・継続的にアピールする必要がある。 ・生徒の作品や生徒自身の活動を地域社会とつなぐことが確実なブランディング強化に繋がるものと考えている。 ・進学する大学やその先の職業などの具体例を、もっと詳しく中学校関係者に示せばよい。	